

**SCULPTURE**



# ホセ・バネガスの彫刻

彫刻家 高橋 清

1962年、私はティアワナコの遺跡やクスコを訪れる途中、コロンビアのボゴタに立ち寄り、建築家サン・ペル氏に会い、コルビジーの流れを汲むコンパクトな彼の作品である教会を見せていただいた。

教会の広場で多勢の人々が集り、マリアを担いた行列がたまたま通り過ぎ、カラフルな民族衣装の子供や、様々な風体の人々の流れが、モダンな教会と一体となって醸していた鮮烈な印象は、静かなコロニヤ風の街並と共に、忘れ得ぬ記憶となって残っていた。

1983年以降、金沢市にある私の研究室で仕事をしたコロンビア人、ホセ・バネガス君の作品は雄大なアンデスや、熱帯のむせかえるような密林の匂いの中で生きる動物、鳥と人間の共存が織りなす幻想と現実が一体となっている。

しかしその彫刻は、只、サン・アウグステンの遺跡の沈黙の世界に還るのではなく、ガルシア・マルケスが描く世界が、我々の文明生活に対する無限の警鐘であり、風刺である如く、ホセ・バネガス君の彫刻は、立体空間に対し、観念的な種々の試行を冷やかに見つめながら、乾いた、するどい形の複合的な発見を素直でバイタルな集積郡の中で、デリケートな素材処理の配慮と共に見せている。

彼にとって、その祖国から最も遠い国、日本で発見している伝統的な造形の美感覚や美意識に対する若者らしい自由な把握は、今日の造形の普遍性として国境を越えて、多くの人々の共感を得ると信じたい。

1985年3月 於金沢市

# JOSE VANEGAS, COLOMBIA & HIS ART WORKS

by Takahashi Kiyoshi

In 1962 I met a Colombian architect Samper in Bogota on my way to the ruins of Tihuanaco and Cuzco. He led me to a church he had designed which was in the style of Le Corbusier. There were many people in the square of the church and there was a parade carrying an image of Mary. I can still remember the vivid impression of the flow of the children in colorful native costumes, in addition to the quiet colonial-style streets.

When I first met Jose Vanegas, a Colombian sculptor who has worked in my studio since 1983, these memories came back to me. His works remind me of both the actual life I saw and the fantastic images of animals, birds and people juxtaposed with the magnificent Andes mountains and in the strong smell of the jungles.

Mr. Jose Vanegas uses materials very carefully and makes up a heap of forms which are very simple but appear to be 'alive'. His sculptures are not imbued with the silence of the ruins of San Agustin, but more like the pictures of Garcia Marquez which satirize and ring a warning bell about our decaying civilization.

Here in Japan Mr. Jose Vanegas has grasped the Japanese sense of beauty through the free eye of a young man, and this can add to his art works somewhat to make them more universal. I believe his works will attract people from many countries.

in kanazawa Mar. 1985

(translated by Tanahashi Toshie)

# CHARACTERISTICS OF SCULPTURE OF Mr. JOSE VANEGAS

By Kimura Shigenobu

Last autumn I visited Kanazawa in order to give a lecture for the Fourth Kanazawa Sculpture Exhibition. Before the lecture, Mr. Takahashi Kiyoshi, Prof. of Kanazawa College of Art, showed me around the four venues of the exhibition. Among the hundred or so sculptures that I saw, I was especially attracted to the wood sculpture of Mr. Jose Vanegas on display at the city hall of Kanazawa. At that time, I asked Prof. Takahashi about the sculptor and was surprised to learn that he was a thirty-year-old Colombian, and a student of the Kanazawa College of Art, for I couldn't imagine that so substantial a work of art was that of someone only thirty years old.

Mr. Vanegas' sculpture shows a completely abstract form which is constructed by combining several geometrical cubes with flat or curved sides. It is, however, not imbued with an inorganic coldness but appears to be 'alive'. It may be because the convex parts appear as volumes of surging waves and the concave parts as rhythms of receding waves in a subtle combination of spatial structure that appear frolicsome. His careful use of wood, including his skill of putting to good effect the wood-grain, and the contrast between the wood and metal-in some instances-enliven his sculpture.

Roughly speaking, there are two types of sculptors: the first is the type who seeks ultimate forms by subtracting what is dispensable; the second is the type who constructs artistic forms by adding various elements. I refer to the former as

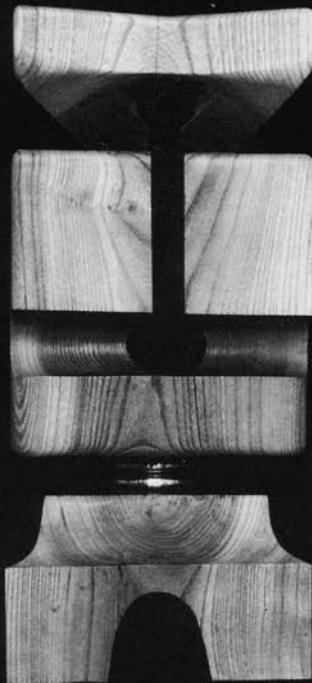
the subtraction type and the latter as the addition type. Though at a glance Mr. Vanegas seems to belong to the second type, as can be seen from his combination of flat and curved surfaces or use of wood and metal materials. He is not a simple type of addition, but he is more. Empty space (subtracted space) such as hollows or holes are also a very important part of his sculpture. Also, however simple the plain forms of this artist's works, they are never monotonous; just as an ellipse with a constantly moving center, which never has the same circumference, reflects both simplicity and diversity.

Mr. Jose Vanegas seeks simple beauty not with a Japanese-like sensitivity, but through modern intellectualism, which is characteristic of his sculpture. His simple forms convey abundant emotional touches.

(translated by Tanahashi Toshie )

# JOSE VANEGAS

SCULPTURES EXHIBITION 1985. 5. 19. ~ 6. 16.



WATCHMAN.1984  
60 x 25 x 25  
WOOD. IRON

● OPENING PARTY 5.19. 4:00~

NISHIDA GALLERY

1-7-12 Omiya-cho Nara Japan  
phone:0742-35-2455

郵便はがき



## ホセ・バネガス彫刻展

(1954年コロンビア・ボゴタ生)

後援・コロンビア大使館

1985年5月19日(日)～  
6月16日(日)

12:00 PM～6:30 PM  
祝祭日を除く月曜日休廊

西田画廊

●5月19日4:00～オープニングパーティを  
催します。お誘い合わせの上お出かけ下さい。



# Immagazine

●CINEMA ●MUSIC ●THEATER ●ART ●LECTURE ●SPORTS ●CITY ●CAMPUS

## 情報力タログ

キヤラリーフ

松の母は、5月2日・3日・4日・5日・6日・7日・8日・9日・10日・11日・12日・13日・14日・15日・16日・17日・18日・19日・20日・21日・22日・23日・24日・25日・26日・27日・28日・29日・30日・31日

古町 さくま

京都屋 京都店

阪急河原町駅すぐ

6月12日(木)～24日(土)

比良アトリエ工場油

6月13日(金)～14日(土)

月曜休業

G-000 ☎ 078-321-1732

スルガ銀行前より、西口へ入る

6月12日(木)～24日(土)

近畿奈良線西へすぐビルト上

6月13日(金)～25日(日)

大阪国伝統陶芸作家会 初夏祭り

6月13日(金)～15日(日)

ギヤラリーフ

6月16日(月)まで

ホセバネガス形割

6月17日(火)～35～2455

近畿奈良線北西へすぐ

6月19日(水)～24日(木)

木曜休業

6月20日(金)～24日(火)

近畿奈良線西へすぐ乾ビルト上

6月21日(土)～25日(日)

大阪国伝統陶芸作家会 初夏祭り

6月21日(土)～23日(日)

ギヤラリーフ

6月22日(月)まで

ホセバネガス形割

6月23日(火)～35～2455

近畿奈良線北西へすぐ

6月23日(火)～24日(水)

木曜休業

6月24日(木)～25日(金)

高島屋京都店

阪急河原町駅すぐ

6月25日(土)～26日(日)

モジリアニ「婦人像」

6月26日(日)～27日(月)

ルートアリ屋

6月27日(月)～28日(火)

高島屋京都店

6月28日(火)～29日(水)

6月23日(火)～24日(水)

木曜休業

6月24日(木)～25日(金)

西田画廊

阪急河原町駅北西へすぐ

6月25日(土)～26日(日)

モジリアニ「婦人像」

6月26日(日)～27日(月)

ルートアリ屋

6月27日(月)～28日(火)

西田画廊

6月28日(火)～29日(水)

6月23日(火)～24日(水)

木曜休業

6月24日(木)～25日(金)

西田画廊

阪急河原町駅北西へすぐ

6月25日(土)～26日(日)

モジリアニ「婦人像」

6月26日(日)～27日(月)

西田画廊

6月27日(月)～28日(火)

西田画廊

6月28日(火)～29日(水)

6月23日(火)～24日(水)

木曜休業

6月24日(木)～25日(金)

西田画廊

阪急河原町駅北西へすぐ

6月25日(土)～26日(日)

モジリアニ「婦人像」

6月26日(日)～27日(月)

西田画廊

6月27日(月)～28日(火)

西田画廊

6月28日(火)～29日(水)

6月23日(火)～24日(水)

木曜休業

6月24日(木)～25日(金)

西田画廊

阪急河原町駅北西へすぐ

6月25日(土)～26日(日)

モジリアニ「婦人像」

6月26日(日)～27日(月)

西田画廊

6月27日(月)～28日(火)

西田画廊

6月28日(火)～29日(水)

6月23日(火)～24日(水)

木曜休業

6月24日(木)～25日(金)

西田画廊

阪急河原町駅北西へすぐ

6月25日(土)～26日(日)

モジリアニ「婦人像」

6月26日(日)～27日(月)

西田画廊

6月27日(月)～28日(火)

西田画廊

6月28日(火)～29日(水)

6月23日(火)～24日(水)

木曜休業

6月24日(木)～25日(金)

西田画廊

阪急河原町駅北西へすぐ

6月25日(土)～26日(日)

モジリアニ「婦人像」

6月26日(日)～27日(月)

西田画廊

6月27日(月)～28日(火)

西田画廊

6月28日(火)～29日(水)

6月23日(火)～24日(水)

木曜休業

6月24日(木)～25日(金)

西田画廊

阪急河原町駅北西へすぐ

6月25日(土)～26日(日)

モジリアニ「婦人像」

6月26日(日)～27日(月)

西田画廊

6月27日(月)～28日(火)

西田画廊

6月28日(火)～29日(水)

6月23日(火)～24日(水)

木曜休業

6月24日(木)～25日(金)

西田画廊

阪急河原町駅北西へすぐ

6月25日(土)～26日(日)

モジリアニ「婦人像」

6月26日(日)～27日(月)

西田画廊

6月27日(月)～28日(火)

西田画廊

6月28日(火)～29日(水)

6月23日(火)～24日(水)

木曜休業

6月24日(木)～25日(金)

西田画廊

阪急河原町駅北西へすぐ

6月25日(土)～26日(日)

モジリアニ「婦人像」

6月26日(日)～27日(月)

西田画廊

6月27日(月)～28日(火)

西田画廊

6月28日(火)～29日(水)

6月23日(火)～24日(水)

木曜休業

6月24日(木)～25日(金)

西田画廊

阪急河原町駅北西へすぐ

6月25日(土)～26日(日)

モジリアニ「婦人像」

6月26日(日)～27日(月)

西田画廊

6月27日(月)～28日(火)

西田画廊

6月28日(火)～29日(水)

6月23日(火)～24日(水)

木曜休業

6月24日(木)～25日(金)

西田画廊

阪急河原町駅北西へすぐ

6月25日(土)～26日(日)

モジリアニ「婦人像」

6月26日(日)～27日(月)

西田画廊

6月27日(月)～28日(火)

西田画廊

6月28日(火)～29日(水)

6月23日(火)～24日(水)

木曜休業

6月24日(木)～25日(金)

西田画廊

阪急河原町駅北西へすぐ

6月25日(土)～26日(日)

モジリアニ「婦人像」

6月26日(日)～27日(月)

西田画廊

6月27日(月)～28日(火)

西田画廊

6月28日(火)～29日(水)

6月23日(火)～24日(水)

木曜休業

6月24日(木)～25日(金)

西田画廊

阪急河原町駅北西へすぐ

6月25日(土)～26日(日)

モジリアニ「婦人像」

6月26日(日)～27日(月)

西田画廊

6月27日(月)～28日(火)

西田画廊

6月28日(火)～29日(水)

6月23日(火)～24日(水)

木曜休業

6月24日(木)～25日(金)

西田画廊

阪急河原町駅北西へすぐ

6月25日(土)～26日(日)

モジリアニ「婦人像」

6月26日(日)～27日(月)

西田画廊

6月27日(月)～28日(火)

西田画廊

6月28日(火)～29日(水)

6月23日(火)～24日(水)

木曜休業

6月24日(木)～25日(金)

西田画廊

阪急河原町駅北西へすぐ

6月25日(土)～26日(日)

モジリアニ「婦人像」

6月26日(日)～27日(月)

西田画廊

6月27日(月)～28日(火)

西田画廊

6月28日(火)～29日(水)

6月23日(火)～24日(水)

木曜休業

6月24日(木)～25日(金)

西田画廊

阪急河原町駅北西へすぐ

6月25日(土)～26日(日)

モジリアニ「婦人像」

6月26日(日)～27日(月)

西田画廊

6月27日(月)～28日(火)

西田画廊

6月28日(火)～29日(水)

6月23日(火)～24日(水)

木曜休業

6月24日(木)～25日(金)

西田画廊

阪急河原町駅北西へすぐ

6月25日(土)～26日(日)

モジリアニ「婦人像」

6月26日(日)～27日(月)

西田画廊

6月27日(月)～28日(火)

西田画廊

6月28日(火)～29日(水)

6月23日(火)～24日(水)

木曜休業

6月24日(木)～25日(金)

西田画廊

阪急河原町駅北西へすぐ

6月25日(土)～26日(日)

モジリアニ「婦人像」

6月26日(日)～27日(月)

西田画廊

6月27日(月)～28日(火)

西田画廊

6月28日(火)～29日(水)

6月23日(火)～24日(水)

木曜休業

6月24日(木)～25日(金)

西田画廊

阪急河原町駅北西へすぐ

6月25日(土)～26日(日)

モジリアニ「婦人像」

6月26日(日)～27日(月)

西田画廊

6月27日(月)～28日(火)

西田画廊

6月28日(火)～29日(水)

6月23日(火)～24日(水)

木曜休業

6月24日(木)～25日(金)

西田画廊

阪急河原町駅北西へすぐ

6月25日(土)～26日(日)

モジリアニ「婦人像」

6月26日(日)～27日(月)

西田画廊</

(5)

昭和60年(1985)6月6日(木曜日)

## コロンビアの若手彫刻家

## 木を主材、抽象に徹す

ホセ・バネガスさんの作品展

コロンビアの若手彫刻家、  
ホセ・バネガスさん(33)の  
作品展が、奈良市大高町二丁  
の西田画廊で始まっている。

## 西田画廊

目七の西田画廊で始まっている。ホセ・バネガスさんはボゴタ生まれで、コロンビア国立大学建築学部卒業。在学中に同大学建築学部ホールのための彫刻モニュメントを彫刻家A・ティアス

と合作、卒業後は出身学部の彫刻教室で講師を務める傍ら、修士号を取得している。アメリカ合衆国政府招聘作家として、中日展(名古屋市博物館)で、都市の美術館を

訪ねたり、第二回エルベルト・アルサーテ・アベンダー彫刻展に出品、作品の仕上げニヨ展に彫刻部門で受賞してや密度の高さでバネガスさん

いるほか、ボゴタ市で「素描と版画展」や合同展などで活躍。コロンビアの現代美術を

荷う若手作家だ。

バネガスさんの作品は、木を主にして用い、中南米の先住文化、マヤ、アステカ、イニカなどに共通する縫文字的な石像を思わせるが、あくまでも抽象に徹し、丸く突き出

る。バネガスさんはボゴタ生まれで、コロンビア国立大学建築学部卒業。在学中に同大学建築学部ホールのための彫刻モニュメントを彫刻家A・ティアス

と合作、卒業後は出身学部の彫刻教室で講師を務める傍

ら、修士号を取得している。アメリカ合衆国政府招聘作家として、中日展(名古屋市博物館)で、都市の美術館を

訪ねたり、第二回エルベルト・アルサーテ・アベンダー彫刻展に出品、作品の仕上げニヨ展に彫刻部門で受賞してや密度の高さでバネガスさん

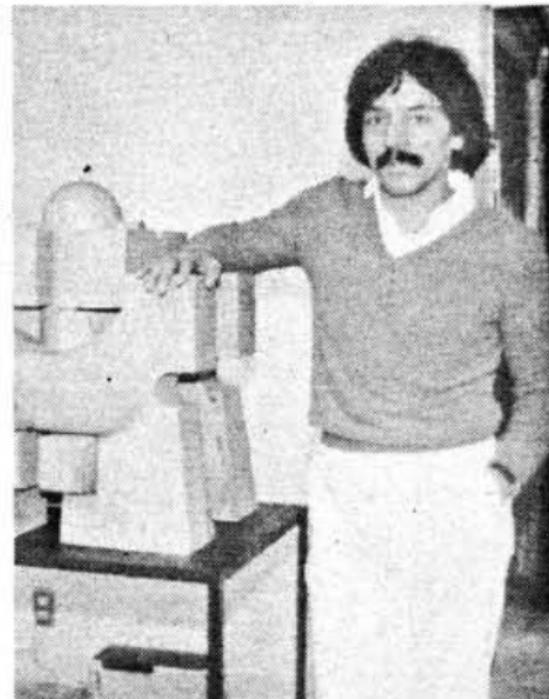
いるほか、ボゴタ市で「素描と版画展」や合同展などで活躍。コロンビアの現代美術を

荷う若手作家だ。

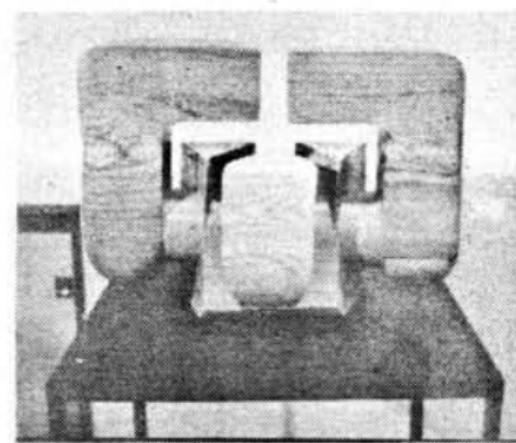
バネガスさんの作品は、木を主にして用い、中南米の先住文化、マヤ、アステカ、イニカなどに共通する縫文字的な石像を思わせるが、あくまでも抽象に徹し、丸く突き出

る。バネガスさんはボゴタ生まれで、コロンビア国立大学建築学部卒業。在学中に同大学建築学部ホールのための彫刻モニュメントを彫刻家A・ティアス

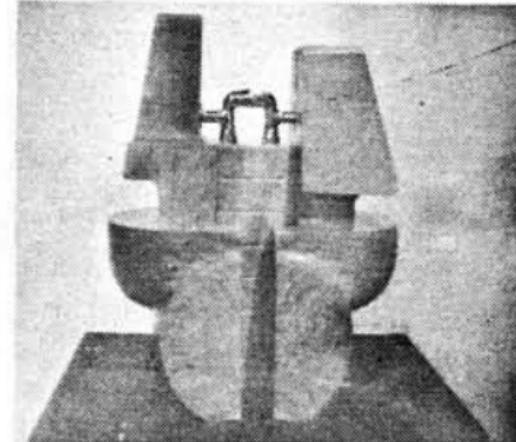
と合作、卒業後は出身学部の彫刻教室で講師を務める傍



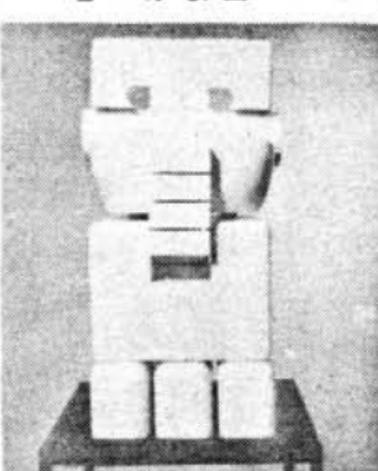
一番好きな作品の前で、と頼めば迷わず「CATHEDRAL」の側に



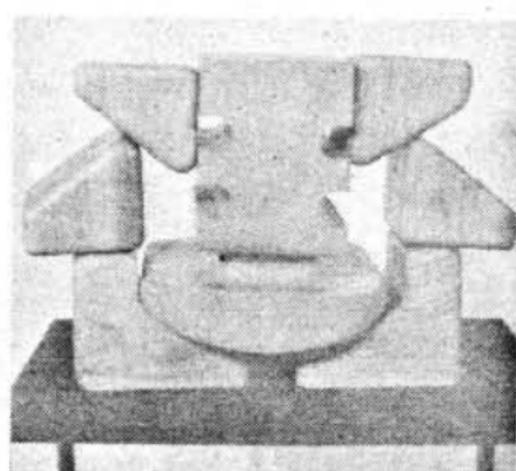
「MASK」



DO NOT TOUCH



唯一、大理石による作品



「ANACHRONISM」

# 美術批評



う。製作されたら、原本の  
まあのもの、あるいは、そし  
て軽がつて、枯れ枝をも  
いる場合でも、木といふ存在  
は、表現行為に必要な作者と  
対象との距離に適切な狂いを  
はば當とする。  
木セバックスは一九五四  
年、南米コロンビアの生まれ  
れ、現在、企画美大研究生で  
ら

ではない。逆に木の発言力に作家側が負けてしまつた例は、レバシは見受けける。

レマン  
イ

木の属性生かす配慮

木目、枝ぶりなどいって木の性格性には私たちの記憶に直接する何かがある。木言葉に書くと木は人間のようにうつむいたりだらけたりで十分に自ら表現しているため、そこに安易な人の偏見が作を受けつけない映ししがあるのだ。木の個性を抑えきつめて、精緻化した金剛などと商ひに扱っている作品もあるが、この場合、木を用いる必然性

う素材と遡ることも 目していかたう。バネの  
形は、自然形態であるが 素材からも分り易くなる。  
ここに真像の面を残して、  
有機的な木という素材と が、命形態的なものだ。こ  
れに適合しているかは、ほ  
んとうじょうオール木をもろな  
ら素材と表象とが互に無  
にしてしまつてゐる形の作品

つかなれど、素材の特性をよく  
つかんだ感性が感じられる。  
「ハカル」は現代の美術界で活躍する  
アーティストで、「ハカル」とい  
ふやからぬもの。それは、  
純な形態を専門か組み合わせ  
て作品をつくっているが、卓  
識(平面)で示される本の感  
じなどと曲線(曲面)に感じ、  
れる木の感じで、温かさが折  
り合わさうて、一つの完結し  
た世界を構成している。  
作品の質感のよさが、本の  
頭部の筆記のよさを併せ、

(一九七〇—一九七四年)

ノーノ、ナビ才美術館で開か  
れたる

七  
七

(小池  
重二記者)

# まい・たうん



西田画廊（オーナー西田考作さん）で開かれており、木と鉄棒、石で作られた抽象形態の彫刻十五点が展示され、訪れた人の関心を集めている。

素材はケヤキの木や大理石。それらを平面や曲面に削った立体を幾つか組み合わせて一つの作品を造形していく。木彫は木目を生かし、木に鉄の棒を組み合わせることで木の温かさをうまく引き出している。またインカ、マヤ文明の遺品や日本の土偶を思わせる作品もあり、親しみやすい。

バネガスさんは、日本政府の招きで二年前に来日、現在、石川県金沢市に在住。「寺社や庭、着物、漢字など、コロビアにない形を日本で知り、新しいイメージがわいた」と話している。

## 関心呼ぶホセ・バネガス彫刻展

西田画廊

コロンビアの彫刻家、ホセ・バネガスさん(32)＝写真＝

奈良

## 父と子が競作「木彫と陶」展

ギャラリー喜多

木彫家・井上博さん(59)と陶芸家・嘉宏さん(30)の親子の「木彫と陶」展＝写真＝が生駒市東生駒二のギャラリー喜多で開かれており、ユーモラスな木彫りの面と、明るい作風の陶芸品が人気を集めている。親子展は今回が初めて。

博さんは、会社勤めをしながら長年木彫を続け、主にアメリカの原住民が作る面や、トーテムポールなどを原始美術を手掛けている。今回は面ばかり十八点を出品。木彫りの上に繰り返し油絵の具で彩色された作品は、いずれもユーモラスで表情豊か。

一方、奈良市登美ヶ丘の自宅に窯「バオバブ」を築く陶芸家の嘉宏さんは、搔落(かきおとし)や赤絵、鉄絵などの手法の作品約二百点を出品。持てば鉛のなる高壙(たかづき)など楽しい作品もあり、上品な作風が特徴。

三十一日まで。正午から午後七時まで。水曜休み。問い合わせは同ギャラリー(電〇

六月十六日まで。月曜休み。バネガスさんは今月二十六日までと六月十一日から同十六日まで同画廊にいる。問い合わせは、同画廊(電〇七四二一三五一二四五)まで。

Diciembre 26 1985 pag. 3-C

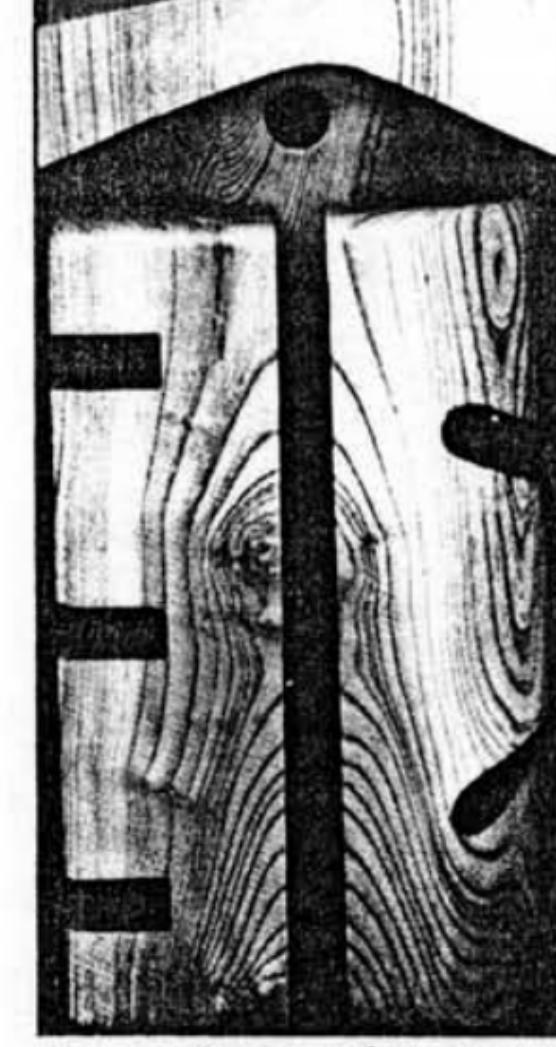
EL TIEMPO (Colombia)

## *Esculturas de colombiano en el Japón*

José Vanegas, escultor bogotano de treinta y un años, egresado de la Escuela de Bellas Artes de la Universidad Nacional, se encuentra hace dos años en el Japón adelantando estudios en la Escuela de Arte Kanazawa con una beca del Ministerio de Educación de ese país. Recientemente en la Galería Nishida de la ciudad de Nara hizo una muestra de sus últimos trabajos: 13 obras talladas en madera y dos en mármol. Vanegas construye formas abstractas y combina cubos geométricos que el artista esculpe cuidadosamente convirtiendo el material en formas simples convexas y cóncavas ensambladas o sobrepuertas. Algunas de sus creaciones tienen hasta siete piezas y traducen la sensibilidad, la sensualidad y la emoción que el artista resuelve en formas orgánicas y sutiles. La cuidadosa utilización del material, especialmente evidente en la madera, la simplicidad y sutileza casi "japonesa" que sus formas transmiten, recuerdan de algunas manera la orfebrería precolombina y sugieren más que un esculpir, un "acariciar" de la materia. También hay en sus trabajos una referencia a los "totems" mágico-religiosos, que si es posible decirlo, recuerdan el futuro, donde el aire envuelve y circunscribe libremente tales volúmenes.

Vanegas trabaja arduamente como sus trabajos lo demuestran y logra reafirmar una expresión, propia que seguramente podrá apreciarse en Colombia, donde el artista piensa exhibir el año próximo.

Cristina Pignalosa de Urdaneta



"Rey y reina", escultura en madera de José Vanegas.